（職員向け）

第四次綾瀬市地域福祉活動計画「見える社協をつくる」アンケート

１　平成26～30年度の「見える綾瀬市社協をつくる」では、次の6つを目標に、活動してまいりました。職員の立場から見て、この5ヶ年間において最も取り組んでいたと思う項目と、ほとんど取り組みがなかったと感じる項目をそれぞれお答えください。

(1) 社協会費、共同募金が住民に還元されている実感をもってもらう。

(2) 広報活動の充実を図り、より情報が伝わりやすい仕組みをつくる。

(3) 市社協活動への住民参加を促進する。

(4) 社会福祉に関する相談を気軽に受けることができる仕組みをつくる。

(5) 地域のニーズや情報をキャッチする仕組みをつくる。

(6) 住民から必要とされる組織基盤を整備する。

○取り組みがあった

○取り組みが無かった

２　上記の回答の理由として、当てはまるものすべてに〇をつけてください。

　(1) 取り組みあり

　　ア　会費や募金を払う意義を外部の人から聞かれることが少なくなった。

　　イ　広報紙が見やすくなり、以前よりも目を通すようになったり、人と話　　　をするときの情報の引き出しになったりしている。

　　ウ　フェイスブック等SNSを見るようになり、日頃の社協の動きが分かる　　　ようになった。

　　エ　社協事業を外部の人に説明しやすくなった。

　　オ　地域なんでも相談が開催され、定期的に相談を受け付けている。

　　カ　ささえあい井戸端会議が設置され、地域のニーズを得ている。

　　キ　社協職員が、地域から信頼されていると感じる。

　　ク　他団体の定例会、会合への出席が増え、情報交換できていると感じる。

　　ケ　職員にとって自己研鑽の機会を得やすいと感じる。

　　コ　その他

　(2) 取り組みなし

　　ア　会費や募金がどう使われているかが、職員の立場でも見えない。

　　イ　広報紙を見ても、情報が入ってこない。

　　ウ　社協が普段、どう動いているかがわからず、問合せの応対に困る。

　　エ　外部の人に社協事業を説明してもなかなか理解が得られない。

　　オ　ささえあい井戸端会議について、何の情報も入ってこない。

　　カ　社協職員が地域から信頼されていないと感じる。

　　キ　他団体の定例会や会合へ出ておらず、情報交換しているとは感じない。

　　ク　職員として自己研鑽の機会が得られない。

　　ケ　その他

３　どのように改善すれば、上記の良い変化はさらにより良く、問題で有る点は解決が図られると思いますか。

　(1) 社協職員が他団体と情報・意見交換する場、機会をつくる。

(2) 政策提言等の意見を集約できる仕組みをつくる。

(3) 各事業に市社協役員をもっと関われるようにする。

　(4) 広報活動の拡大

　(5) 社協あやせ以外の広報の拡大

　(6) 広報活動に市民からの意見を取り入れる仕組みづくり。

　(7) 職員体制等を見直し、職員が他団体の定例会等に積極的に出席し、情報　　を取り入れることのできるしくみをつくる。

　(8) 会費、共同募金の使途の明確化を、まず職員から始める。

　(9) 地域が困ったときに頼れる職員となるため、スキルアップを組織的にバ　　ックアップする体制をつくる。

　(10)在宅福祉サービスの充実

　(11)事務局体制の改変整備

　(12)財源の拡大

　(13)研修体制の充実

　(14) その他

４　その他「見える社協をつくる」ための御提案がございましたら御記入ください。（自由記入）